



最優秀賞

コートと私

吉野川市立山川中学校 1年

住吉 由莉佳

「今日もまた焼けたな。」

毎日のように母から言われる言葉だ。中学校に入
学し、テニス部に入った。上手にできないが、朝も
放課後も練習を頑張っている。

そんなある日、初めて先輩とペアを組んで試合に
出た。初めての前衛。ネットのすぐ向こうに相手チー
ムがいる。スマッシュやボレーが容赦なく向かって
くる。ボールを見ているはずが、見えなくなつて点
を入れられてしまう。結局、何もできないまま試合
が終了した。そんな試合が何度続いた時、母に試
合中どこを見ているか聞かれた。私は「ボールちゃ
んと見とるし。ボール見るのなんか当たり前だろ。」
と不機嫌になった。すると母は、

「それじゃあ前衛の仕事はまだできんな。」

と一言黙った。私には意味がわからなかった。試合
がある度、他のチームの試合を見た。視点を変える
と、コートという空間の中で、前衛と後衛が連動し
て動いていることに気づいた。母は独言のようにぼ
つりと言った。

「ボールはもちろん、後衛の位置、相手の位置や
体の向き、視線：全部を見て動きを予想して動く。
前衛って難しいな。」

毎日の生活で一人でいることは少ない。教室、コー
ト、家、どの場面でも誰かと空間を共有している。
そして、常に言葉を交わす訳ではなく、状況から相
手の気持ちを考えたり、自分の行動を決めたりする
場面がある。普段の行動を振り返ると、試合中の自
分と同じ自分があることに気づいた。周囲の様子を
見て考えて行動できていない自分。人や物事に対し
て一方的な見方をしている自分。ボールしか見な
かったのは、周りを見ようとせず、周りが見えない
日常の自分が招いた結果だった。

先輩が引退し、新チームとなった。試合中はもち
ろん、準備や片付け、様々な場面で周りをよく見て、
考えて行動することを意識するようになった。テニ
スを通して「音無き言葉」を目と心で受け止め、考
え、正しく判断して行動できるように成長していき
たい。